【高等学校「情報Ⅰ」 ネットワークの活用（データの活用）】①

【熊本県立第一高等学校】

学習指導と学習評価の工夫・改善点の概要

◎学習したことが【つながり】、生かされるという【深い学び】の実現
　総合的な探究の時間での取組と情報Ⅰの学習を連携させることで、情報活用能力を含めた生徒の資質・能力の更なる育成につなげる

評価規準

【知技】データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し、それらの技能を身に付けている（定期テスト）
【思判表】データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善することができる（発表の相互評価、アンケートの内容）
【主体】評価、改善において自身の活動を振り返り、課題解決につなげるようとしている（振り返り、他者への評価の取り組み状況）

教科等横断的な視点での取組

①総探で取り組んだプレゼンについて、説得力が増すために「どんなデータが必要か」を考えブラッシュアップする。

②アンケートの作成、回答、集計、分析を行う。

③近隣地域から審査員を招き、学年全体で成果発表会を実施する。

【振り返り】１学期から継続して使用しているスプレッドシートでルーブリック評価を行う。

　課題解決を学習の主軸としている「総合的な探究の時間」（以下「総探」）の内容を、情報Ⅰで活用することで、教科等横断的な視点での深い学びが実現できた。

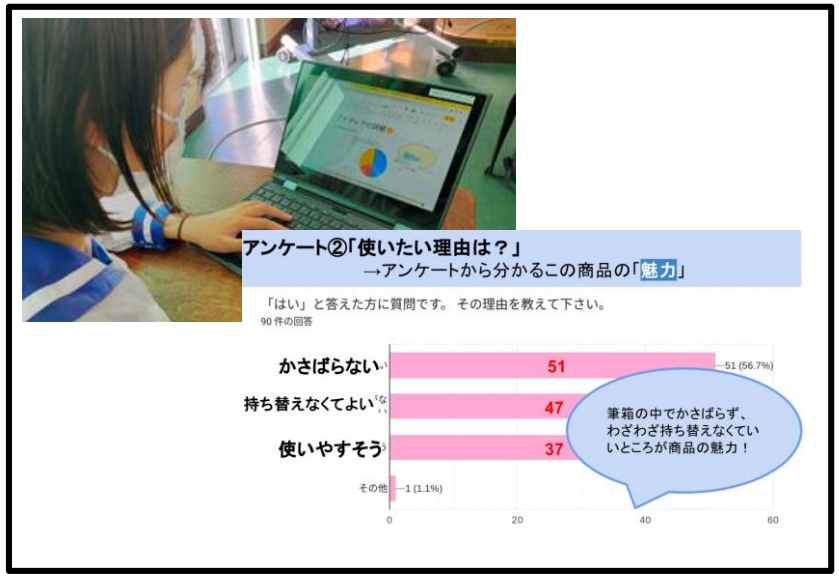
　総探では「『アップサイクル商品の開発』を通して、災害復興支援や地方創生、若者の雇用などの社会的課題を、創造力で解決しよう」という学習を実施した。

　総探で自分が設定したテーマに、情報Ⅰで学習したデータ分析を活用することで学習内容に「つながり」を持たせた。

①他者との意見交換では、「批判的な」視点に立った改善点の発見を学習活動の中心として行った。生徒からは、「何を言われるんだろうという緊張感があった」、「自分たちでは気付けなかった意見を聞くことができた」などの声が上がった。
②情報Ⅰでは、「アンケート作成のポイント」「作成方法」「調査方法」「集計方法」についての技術的な部分を学習し、総探では、分析や意見交換、班活動を実施できるよう調整した。
③各クラスから代表班を選出し、体育館での学年発表会を実施した。１学期の活動から協力をいただいている外部有識者を審査員として招き、継続して実施した２学期の学習の成果を見ていただいた。
【振り返り】振り返りの時間を設け、ルーブリックを用いて評価を行った。

【高等学校「情報Ⅰ」 ネットワークの活用（データの活用）】②

【図①】



【図②】

課題解決では、提示された学習課題の質だけではなく、生徒自身がじっくりと課題に向き合い、粘り強く取り組む姿勢が重要となる。

しかし、情報Ⅰの授業のみで課題解決に取り組むと、時間の確保が十分にできず、単なる調べ学習程度にとどまり、データの重要性を理解することや、データ分析ができたという成果を出すことが難しい。

そこで、課題解決を軸とする「総探」の内容を継続して活用することで、情報Ⅰで学んだ情報活用能力やデータ分析の知識・技能が生かされ、「つながり」「深い学び」になると考えた。

「総探」で取り扱った課題を再度活用し、「より説得力のある」プレゼンをするという目標を立てたことで、生徒の負担感もなく、さらに深めていこうとする意欲が見られ、「主体的で深い学び」につながった。

実際に１学期時点と比べると、調査内容に統計データが入ったり、さらに新たな課題について考察するなどの変化が見られた。

情報Ⅰで実施した「このデータは『総探』の調査のどこに活かされるか」という直接的な問いについても、しっかりと考えることができ、「つながり」を生徒が意識することができるようになった。

「総探」の内容に継続して取り組むことで、深い学びにつながり、特に「主体的に学習に取り組む態度」に関して、教員、生徒、双方で自信をもって評価できる内容となった。

教科等横断的な視点で授業を組み立てたことで、「何をしているか」「どのような成果が見えたか」などが明確となり、その成長が実感するとともにそれを評価することができた。

熊本県

標準単位が２単位である「情報Ⅰ」において、授業時間数の関係上、学習内容を効率的に定着させつつ、目標に掲げてある資質・能力や情報活用能力を育成する必要がある。

今回の教科等横断的な視点での取組では、生徒が問題を発見する過程がすでに総合的な探究の時間で行われているため、本来ならば「情報Ⅰ」の授業の中で問題発見に費やす時間を省略するとともに、その時間を問題解決に充てることができる。このことによって、思考力・判断力・表現力に重点を置いた、より深い学びが展開できる。

また、「情報Ⅰ」（データの分析）で育成された資質・能力が、総合的な探究の時間との連携によって、探究的な学びの充実や情報活用能力の更なる育成にもつながっている。